



寮は、古い形が^た𩇛で、木と火と日の会意字です。“焚き火を焚いて、昼間のように明るくする”という意味の字です。「燎」の本字です。音はリョウ。

燎は、火と寮との会意形声字です。“火を赤々と燃やす”という意味の字です。「燎原の火」とは、野原を焼く火が見る見る広がって“勢いのすさまじい”ことですが、それを物事のたちまちに広まること、勢いの強いことのたとえに使われます。

寮は、宀と寮との会意形声字で、音は寮^{リョウ}です。“建物(宀)の中で、昼間のように火を焚く”ことで、“役所”を表わしています。昔は電燈がありませんでしたので、役所では夜、焚き火を焚いて仕事をしました。わが国でも、昔は役所の名前に「〇〇寮」という名が付けられていましたが、今では、学生の宿舎のことに使われています。学生寮。寮歌。

僚は、役所の意味の寮と人との会意形声字で“役所の人”という意味の字です。今でも「官僚」などの用法があります。「同僚」は、同じ役所の仲間という意味の字です。

瞭は、“明るい”という意味の寮と目との会意形声字で、“目がはっきり

とよく見える”“物事がよくわかる”という意味の字です。明瞭^{メイ、イチモク}。一目了然^{ゼン}（ちょっと見ただけではっきりとわかる）。

療は、“明るい”意味の寮と疒との会意形声字です。病気の原因を明瞭にして、その原因を取り除くことで、“病気をな^なお^おす”という意味を表わしています。治療。療養。